

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-83C	15-136	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Alcohol intake and breast cancer in the European prospective investigation into cancer and nutrition がんと栄養に関するヨーロッパ前向き研究(EPIC)を用いたアルコール摂取と乳がんの関連		
執筆者		
Romieu I, Scoccianti C, Chajès V, et al.		
掲載誌		
Int J Cancer. 2015 Oct 15;137(8):1921-30. doi: 10.1002/ijc.29469.		
キーワード		PMID
アルコール、乳がん、前向き研究		25677034
要 旨		
<p><b>目的：</b> アルコール摂取は女性の乳がん発症と関連する。しかし、乳がんのホルモン受容体のタイプや飲酒開始時の年齢による交絡は十分に考慮されていない。そこで、前向きコホート研究により、アルコール摂取と乳がん発症のリスクの関連を検討した。</p> <p><b>方法：</b> The European Prospective Investigation into Cancer and Nutrition (EPIC) のデータを用いて、調査開始時に 35-70 歳であった欧州 10 か国の女性 334,850 人を対象に、平均 11 年間の追跡調査を行った。アルコール摂取量は、各国の自記式質問票の結果から算出した。乳がんのホルモン受容体のタイプや飲酒開始時の年齢別にアルコール摂取量と乳がん発症のハザード比を、コックス比例ハザードモデルにより分析した。</p> <p><b>結果：</b> 3,670,439 人年で診断された乳がんは 11,576 例であった。調査開始時のアルコール摂取は乳がん発症のリスクと有意に関連しており (<math>p &lt; 0.0001</math>)、アルコール摂取量が 1 日 10g 増えると、乳がん発症のリスクは 4.2% 上昇した (95%CI: 2.7-5.8%)。また、1 日当たりのアルコール摂取量 0-5g であった群を対照とすると、5-15g のアルコール摂取群では乳がん発症のリスクが 5.9% 高かった (95%CI: 1.0-11.0%)。さらに、このようなリスクの上昇は、ホルモン受容体 ER+/PR+、ER-/PR-、HER2-、ER-/PR-HER2-においても同様に認められた。また、アルコール摂取と乳がん発症のリスクとの関連は、最初の満期妊娠以前に飲酒を開始した女性において特に強かった (<math>p \leq 0.001</math>)。</p> <p><b>結論：</b> アルコール摂取と女性の乳がん発症のリスクは、ホルモン受容体陽性及び陰性の両者において認められた。また、アルコール摂取を開始するタイミングも乳がん発症のリスクと関連する可能性が示唆された。</p>		